



鹿児島県護憲平和 フォーラム情報



NO—158 2024. 1. 1

発行：鹿児島県護憲平和フォーラム Email:kenheiwa@bronze.ocn.ne.jp
連絡先：鹿児島市鴨池新町 5-7 TEL 099-252-8585 FAX099-258-4560

オスプレイ墜落事故に思う

代表 平井 一臣

11 月 29 日、屋久島沖に米空軍輸送機 CV 2 2 オスプレイ機が墜落した。事故発生の前に屋久島空港に同機からの連絡が入っており、機体に何らかの異常が発生し緊急着陸を試みようとしたが、屋久島空港到着前に墜落したものと見られる。

事故発生直後から痛感させられたのは、米軍の分厚い壁である。事故発生当初、日本政府は「墜落」という用語を用いず「不時着水」という用語を用いた。米側が「墜落」という用語を用いていなかったからというのがその理由らしい。しかし、現場で事故を目撃した地元漁業関係者の証言は墜落以外の何ものでもないことを示していた。自国民の証言は疎んじられ米軍への配慮を優先させる政府の姿勢が浮き彫りになった。

私たち護憲平和フォーラムも、県にオスプレイの飛行停止や事故原因の徹底究明と情報公開を求める申し入れを事故翌日に行った。しかし、事故の翌日も沖縄ではオスプレイの離発着が行われた。空軍ではなく海兵隊所属の MV 2 2 オスプレイではあるが、事故が起きても何ら変わることなく沖縄上空をオスプレイが飛行しており、米軍にとっては住民の不安などどこ吹く風といったところなのだろう。

今回の事故が海上での事故だったこともあり、当初は地元漁業関係者や海上保安庁が中心になり救助活動や回収作業を行った。だが、米

軍による作業の本格化に伴い（原子力空母カールビンソンまで投入された）、活動内容そのものが秘密のベールに包まれていった。もし地上での事故であったならば、より早い段階から米軍の徹底した管理がなされていたであろう。

オスプレイ墜落事故は、私たちに様々な問題を突き付けている。一つは、ここ数年、急速に展開されている南西諸島の防衛力強化により、事故のリスクが格段に高まっているということである。馬毛島の FCLP 訓練施設建設、奄美大島への自衛隊基地建設、南西諸島を舞台とした様々な訓練の展開が進められてきた。私たちの生活圏に軍事的空間が覆いかぶさりつつあるのであり、事故のリスクは高まることはあっても減ることはない。

もう一つは、冒頭に指摘した米軍の分厚い壁である。日米地位協定とそれを根拠づける合意議事録の存在により、今回のような事故が起きても、日本側は手も足も出せない。事故翌日からオスプレイが離発着を繰り返しても、住民は不安を抱えながら眺めるしかない。

今回の事故をきっかけに、軍事力の強化が私たちの日常の生活にどのような影響を与えるのか、私たちはしっかりと考える必要がある。地域での反戦と平和の活動が果たすべき役割はますます大きなものとなるだろう。



米軍機オスプレイ 屋久島沖で墜落死亡事故発生 =米国で 10 年前から「構造的欠陥」指摘=



す。

オスプレイは開発段階から墜落事故が相次ぎ、多くの乗組員が死亡（12月6日時点）。これまでに63人の死亡（同時点）が確認されています。戦闘による死者は1人もなく、すべて墜落など事故によるものという異常事態です。とりわけ、2022年以降の2年間で4機が墜落し、死亡確認は18人となっています。また、今回の屋久島沖での死亡者数は、実戦配備後では最多です。事故後も米軍は、沖縄や奄美でオスプレイの飛行を継続しました。12月6日ようやく米軍は「全てのオスプレイの飛行を一時停止」とすると公表しましたが、遅きに失した措置と言わざるを得ません。そもそもオスプレイの構造的欠陥については、米国内で10年も前から報道されていました。また、あまりの犠牲者の多さから、オスプレイは米メディアから「空飛ぶ棺おけ」と呼ばれたこともありました。米軍が安全対策を怠ったとして、遺族による訴訟も発生しています。

遅きに失した「飛行停止」措置 米空軍横田基地（東京都）所属のCV22オスプレイが11月29日、鹿児島県屋久島沖で墜落して12月11日で約2週間になります。11日時点で乗組員8人中7人の死亡が確認されており、残る1人を含めて8人が死亡と米側が認定したと報じられています。機体は、日米地位協定のもと、米軍に引き渡され、日本側の原因究明は困難とも報じられていま

■オスプレイ これまでの死亡事故		
【開発段階】	●内の数字は死亡者数	
92・7・20	⑦	米本土
00・4・8	⑱	//
00・12・11	④	//
【実戦配備後】		
10・4・8	④	アフガニスタン
11・7・7	①	アフガニスタン
12・4・11	②	モロッコ
14・10・1	①	ペルシャ湾
14・5・19	①	米本土
15・5・17	②	ハワイ
17・7・11	①	米本土
17・8・5	③	オーストラリア沖
22・3・18	④	ノルウェー
22・6・8	⑤	米本土
23・8・27	③	オーストラリア
23・11・29	⑥※	鹿児島・屋久島沖
合 計		63人
■は米空軍CV22、それ以外は海兵隊MV22		
※乗組員8人、5日現在でうち6人が死亡確認、残る2人は行方不明		



「塩田県知事への申し入れ」「防衛相への抗議要請」「在日米軍への抗議要請」行動を実施 このままでは、住民が巻き添えになる事故は避けられません。県護憲フォーラムと鹿児島に米軍はいらない県民の会は、各構成組織の皆さんと共に、各種申し入れや抗議要請を実施しました。日本政府は、佐賀空港に配備予定のオスプレイの購入をやめ、配備を見直すべきと求めました。「構造的欠陥機」であるオスプレイ配備の撤回

に踏み切るべきです。

九州ブロック（九州・沖縄）8地区の平和フォーラム 防衛省へ緊急要請 鹿児島からは県護憲・磨島昭広事務局長が参加し、12月12日防衛省（東京）への緊急要請行動を、各県選出の野党代議士を交えて行いました。要請では、事故の真相究明と調査報告の公開、沖縄県の米軍普天間飛行場配備のMV22オスプレイを完全撤去することなどを求めました。

「外交による安全保障を」 不戦を誓う日の集会 (奄美)

今年の「12・8不戦を誓う日の集会」は、奄美ブロックで行われました。

講師に清水雅彦（しみずまさひこ）氏を招聘して、「憲法改正と戦争～憲法違反の軍事基地化を止めることは、できないか？」をテーマにお話していただきました。

まず、自己紹介で日体大教授の私がなぜ「憲法論」を教授するの？ 『「教職課程」をとる学生の必修が「憲法学」だから・・・』、の一言で、会場の雰囲気や和らぎました。

講演は、14ページに及ぶレジメを基に、簡潔丁寧に説明いただきました。

憲法の9条をめぐる解釈改憲は、歴代の自民党政権下で徐々に行われ、ここ十数年来の安倍自公政権以来、その欺瞞性は際立ったと、話されました。2015年の「安保関連法」の成立で、「集団的自衛権」が容認され、「武力の行使3要件」を下に、「同盟国のアメリカが攻撃を受けた場合に、日本は、アメリカの援護・反撃が出来る。」ようになったと語られました。

しかし、清水先生は、憲法9条を「自衛戦争を含む一切の戦争放棄と戦争の不保持」との解釈を明確にしています。昨年12月に岸田政権が閣議決定した安保三文書で明記された「反撃能力の保有」等の、政府の防衛政策を問題視しました。

「外交がしっかりしていれば、軍隊がない国家（コスタリカなど26国）でも侵略されていない。」と、日本も九条を固く守り、「非武装」の国づくりをしなければならないと訴えました。そして、北朝鮮、中国、ロシアを敵視せず、戦力を持たずに東アジアにおける安全保障の枠組みをつくるよう政府に提言しました。

最後に、2019年に陸上自衛隊の駐屯地、分屯地が開設されて以降、奄美群島で日米軍事訓練が頻繁に行なわれている点にも触れていただき「台湾有事をはじめとして、アメリカが戦争すれば自衛隊駐屯地も反撃対象になる。自衛隊基地があるから危険という世論を拡げてほしい。」と強調されました。

追伸として、憲法改悪を許さないために、『国会の「憲法調査会」の論議に注視しなければならない。今のところ委員会は、改憲派が多数を占めているが、野党の座長を「立民議員」が握っているので、辛うじて改憲を踏ん張っている。「維新」に渡ったらもう終わりだ。そのためにも、これから先の国政選挙戦において、労働組合を中心に市民連合と立憲野党共闘が益々重要になってくる。』と語られました。政権交代が実現した暁には、自衛隊を国際救助隊へ改編することも夢ではないことも話されました。

奄美の空に、「欠陥機・オスプレイ」が姿を見せない、つかの間に開催された、さわやかな、講演会でした。



鹿児島ブロックでは、12 月 2 日 (土) 10 時から、鹿児島県労働者福祉会館 7 階ホールにおいて、東京在住の「杉浦ひとみ」弁護士を講師に、『不戦を誓う日の集会』を開催しました。講師は、子どもたちの問題にかかわって来た理由、あまりにもアメリカファーストな日本の政治の現状、ウクライナやパレスチナに見る軍備による抑止の効果が破綻している現状など触れながら、軍事強化がもたらす弊害をコスタリカの例を挙げ力説。「平和を求め軍拡を許さない女たちの会」を立ち上げ皆で行動していることを報告いただきました。当日は 72 名の方に参加いただきました。



南薩ブロック・指宿「平和学習会」は 12 月 6 日 18 時から「なのはな館」で、県護憲共同代表の下馬場学さんを講師に開催、39 名の参加でした。

「ついに!」「やっぱり!」11 月 29 日オスプレイが墜落。これまでも「機体の不具合」を理由に緊急着陸が報告されていたが、欠陥機と言われていたオスプレイ 17 機を「社会保障費削減分に匹敵する 3,600 億円で購入するとしている」また馬毛島基地は今年 1 月 12 日突如着工、整備費として 2,684 億円が計上されるなど、かなり増額される状況にある。市民生活でも多くの問題点が出てきている。「こんなはずじゃなかった」(賛成派市民)、増え続ける作業員～食料・ゴミ・住宅・防犯等など・・・来年には 8,000 人規模が島外から入る。地元では漁業離れ・農業離れが起きている。



熊毛ブロックは 12 月 6 日屋久島沖での米軍機オスプレイの事故を受けて、事故の原因究明と改めて基地建設見直しを求めて、九州防衛局と西之表市長に対して要請活動を行った。参加者は、大石代表と鎌倉書記。まず九州防衛局種子島出張所長と面談し、事故原因の調査をしっかりと行ってほしいこと、今後はオスプレイの飛行を停止すること。このような要望があることを、防衛省及び米軍にきちんと伝えるよう要請した。そのあと西之表市長と面談し、九州防衛局種子島出張所へ要請したことを伝え、市長からも事故の検証と原因究明、オスプレイの飛行差し止めを要請されるようお願いした。馬毛島の基地建設については、市長の態度を明確にし、即時中止を求めてほしい。と話した。事故の件については、そのように要望をしているが、馬毛島の件については、反対、賛成両方の意見を聞かなければならない立場であるためとして、はっきりとした回答はもらえなかった。



北薩ブロックでは、12 月 2 日に「12・8 不戦を誓う日の集会」を川内中央公民館で、70 名の参加で開催しました。北薩ブロック平和運動センター議長の田中早人さんが、「岸田政権の大軍拡に反対しよう」という演題で問題提起を行いました。感想に「フロアからの熱い思いも聞けて勉強になりました」とあったように、多くの参加者からの意見を得て大成功に終わりました。

《 お知らせ 》・「紀元節復活に反対し。思想・信教の自由を守る 2.11 集会」

2024 年 2 月 10 日 (土) 10 時～ 『教育と愛国』映画上映 鹿児島市国際交流センター
・川内原発防災訓練「監視行動」 2024 年 2 月 10 日 (土) 近隣ブロックにて対応予定